

トマト、ミニトマト（ナス科）

大玉：桃太郎8 中玉：レッドオーレ
ミニ：千果

1 作業体系

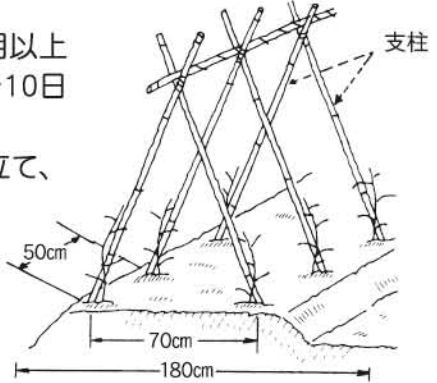
月	5	6	7	8	9	10
作業体系	定植 ◎		収穫 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□			
	追肥	追肥	追肥			

2 ここがポイント！

- ・良品を得るためには雨よけ栽培を基本とします。
- ・生育適温は昼間は25℃前後、夜間は15℃前後で、乾燥を好みます。
- ・ナス科の連作を避けるか、接ぎ木苗を利用します。苗はガッチリした良い苗を選びます。
- ・樹ボケを起こさないために、基肥の窒素は控えめにします。
- ・極端な水やりは根を傷めたり、品質が低下するので、毎日少しずつ行うことが大切です。

① 畑の準備

排水の良い土地を選びます。土作りが大切で、植え付け1ヶ月以上前に完熟堆肥・苦土石灰などを施し、深く耕しておきます。7～10日前までに基肥を施し、幅180cmで畝を作ります。
植え付けの前日までに、条間70cmの2条で、株間50cmに支柱を立て、植え穴を掘っておきます。

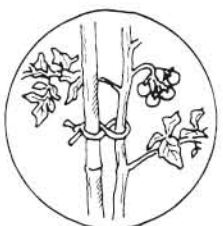


② 植え付け

一番花が咲いた時が適期です。植え付けの前日、植え穴にかん水しておきます。通路側に花がくるように植えます。

③ わき芽かき・誘引・摘果

わき芽は小さい内に（つま楊枝くらい）、晴天の日に手で掻き取ります。花房の下で、花が通路側に向くように支柱に8の字にヒモを結びつけます。1花房あたり3～4果、形の良い障害のないものを残します。果実の肥大や着色を良くするため、出来るだけ光を当てます。



④ 追肥

追肥は第1花房の果実がピンポン玉大になった頃からはじめます。その後の追肥は第3花房、第5花房の玉が肥大しはじめ頃とします。
肥料が効きすぎると、茎が異状に太くなったり奇形果の発生やスジ腐れ等の生理障害が出やすいので生育をみて肥料をやるのが大切です。
桃太郎は後半、肥料切れを起こしやすいので後半の追肥は早めにやる必要があります。



3 施肥設計

10㎡あたりkg

肥料名（窒素－リン酸－加里）	基 肥	追 肥	備 考
土力のおかげ堆肥	30～40		・追肥は3回に分けて施用します。
苦土石灰	1.0～1.5		
BM苦土重焼燐（0－35－0）	0.4		
発酵鶏糞（2.4－7.5－4.4）	3.0～5.0		
野菜有機ペレット（10－5－7）	2.0		
野菜燐加安S540（15－14－10）		1.0	

4 収穫

涼しいうちに赤く色づいたものから順次収穫します。

5 病虫害防除

害虫は、アブラムシ・コナジラミ・サビダニ・タバコガ・ハスモンヨトウ等が発生します。アブラムシ・コナジラミはウイルス病を運びます。サビダニの発生が多いと枯れてしまいます。

病気は、葉カビ病・疫病・灰色カビ病等が発生します。

青枯れ病などの土壌病害は連作しなくても発生することがあるので、接ぎ木苗を利用するのが安全です。

6 豆知識

トマトはビタミンA、Cを多く含み、1日1個で必要量が得られます。赤い色素のリコピンはβ-カロテンの2倍、ビタミンEの100倍の活性酸素消去能力を持ち、血中のリコピン濃度が高い人はガンが少ないと言われています。

	大玉トマト（生）	ミニトマト（生）
ビタミンA（カロテン）	540 μg	960 μg
ビタミンC	15mg	32mg
カロリー	19kcal	29kcal
五訂 日本食品標準分析表より（100gあたり）		